

2022年度 研究助成「学問の未来を拓く」 申請要項

公益財団法人サントリー文化財団

当財団は、1979年の設立当初から、組織や専門分野を超えた学際的なグループによる、知的に刺激的で自由な研究活動を推進するため、研究助成を行ってきました。しかし昨今、研究の世界では短期的な成果が求められ、多分野にまたがる研究や普遍的なテーマへの取り組み、新しいテーマや手法へのチャレンジなど、大胆な冒険がしにくくなっています。このような時代だからこそ、当財団では、大きな志をもった研究活動を応援します。驚きや発見に富み、研究に携わる人をはじめ、人々を知的にわくわくさせるような申請をお待ちしています。

1. 助成の目的

本助成は、人文学、社会科学の分野において、従来の「研究」や「学問」を問い直す知的冒険に満ちたグループ研究活動の支援を通して、豊かなく知の発展に貢献することを目指しています。

2. 求める研究のすがた

- (1) 人文学、社会科学の分野において、冒険的で意欲ある研究を求めます。そして、ぜひ率直にその難しさを教えてください。解決の方法が明らかでなくても、課題や困難を乗り越える道筋を描こうとする「試み」を歓迎します。
- (2) さまざまな分野や世代のメンバーが力をあわせて困難に立ち向かうような、一研究者ではできないグループ研究を求めます。グループの形態としては3名以上を想定しており、個人研究や一つの組織・機関の研究者のみで構成されたものは対象外とします。また、複数のメンバーで議論を深める研究が対象であり、調査対象先が複数であることをグループ研究とはみなしません。
- (3) 大学等に所属の研究者だけではなく、多様なバックグラウンドを持った専門家の参加を歓迎します。研究者による研究はもちろん、実務家や行政官、作家や芸術家による研究、研究者とさまざまな人たちのグループ研究等も申請可能です。
- (4) 課題や困難を乗り越えた先に得られた研究成果を広く社会へ還元しようとする姿勢や、学術性の高い専門的なテーマでも、社会とのつながりを意識し、専門外の人にも知的躍動感を伝えるようなプロジェクトを応援します。
- (5) 既に始めている研究、新たに着手する研究のいずれも申請可能です。
- (6) 申請代表者の国籍、居住地は問いませんが、書類作成、中間報告会での学際的な議論への参加が可能な日本語能力を持つことを条件とします。

◆対象外の研究

- ・アンケート等の調査の実施のみを目的とするもの
- ・シンポジウムや出版等の成果発表のみを目的とするもの

◆(参考)これまでの選考委員会でのコメント抜粋

※代表者肩書きは申請当時

2018年度、2019年度採択「学際としての『北陸学』の構築を目指して」 (代表:金沢大学国際基幹教育院准教授 井出明氏)
「金沢学」ではなく北陸というリージョンを総括的に捉えようとする志向において、新たな可能性を秘めている。研究メンバーの構成も年代や専門分野の配置において工夫が見られる。
2019年度採択「生成期の宝塚歌劇とレビューのグローバリズム・政治・身体」 (代表:立命館大学文学部教授 宮本直美氏)
既に出尽くしたという印象があるテーマかもしれないが、問題の焦点であるレビューのグローバリズムを探るといふ点は有りそうで無かった斬新な切り口。海外との関係を重視する視点も注目に値する。
2019年度、2020年度採択「古代から中近世にわたる山城・城柵・グスク・チャシの変遷に関する研究～構造の3次元モデル比較と防禦機能に関するシミュレーション～」 (代表:佐世保工業高等専門学校教授 堀江潔氏)
単著論文が基本の史学研究者が、同僚や学生と共にドローンを用いて古代の城塞を研究するという手法は、なにか画期的知見をもたらしてくれるのではないかという期待をもたせる。

3.助成金額および助成対象期間

- (1) 年間の助成件数および各々の助成金額は、選考委員会において決定します。50万円から300万円の範囲で研究に必要な金額を申請してください(1万円未満は切捨て)。なお、申請額の満額支給とは限りませんので、あらかじめご了承ください。
※2021年度は応募総数292件のうち、24件に対し総額2,500万円の助成を行いました。
- (2) 助成対象期間は2022年8月1日から2023年7月31日までの1年間とします。助成期間は固定ですが、新型コロナウイルス感染症の影響によるスケジュールの変更等については、状況に応じて個別に柔軟な対応を実施します。
- (3) 助成金は「円貨」にて決定します。
- (4) 他機関の助成との併願・同時受給は可能です。

4.助成金の使途費目

- (1) 助成金の使途は、研究目的を達成するために必要な費目とします。
- (2) 申請代表者や研究メンバーが所属する組織の間接経費、一般管理費等は助成の対象としません。

◆対象外の使途

- ・一組織の本来業務のための活動費や事業費
- ・申請研究に関係しない備品や資料購入費

5.継続助成 (※新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、2021年度被採択グループに加え、2020年度被採択グループも対象とします)

同一内容での継続助成は一度限り、最長1年とします。継続申請を希望する場合は、継続申請用の書式にて申請書を提出してください。選考委員会において、改めて審査します。

6.選考方法

選考は選考委員会において、所定の様式のみにて行い、理事会で決定します。

7.申請方法（※次ページ以降の注意事項も必ずあわせてご確認ください。）

- (1) 申請締切 2022年4月7日(木)23時59分(日本時間)
※締切当日のお問い合わせは17時までとします。ご注意ください。
- (2) 申請方法 当財団ホームページ内、研究助成ページ(<https://www.suntory.co.jp/sfnd/research/>)
よりご申請ください。

8.助成の決定

2022年7月を予定しています。選考結果は、申請時に登録されたメールアドレスにお送りします。

9.助成金の交付

助成金は2022年8月に全額を交付します。助成金の振込みは原則「円口座」とします。

10.研究経過等の報告

- (1) 助成対象研究については、2023年1～2月に大阪市内で研究状況の中間報告を口頭で行っていただく予定です。助成プログラムの一環として行うものですので、必ずご出席ください。
※状況によって対面での開催が難しい場合は、方法等を変更する場合がございます。
- (2) 研究成果の発表にあたっては、報告書、成果発表会等いずれの場合にもしかなるべき箇所にサントリー文化財団の助成を受けた研究である旨を明記してください。

11.報告書の提出

助成期間終了後に、当財団指定のフォーマットにて成果報告と収支報告を提出していただきます。成果報告は当財団HPにて公開します。

12.個人情報の取り扱い

助成決定後、当財団ホームページ、広報リリース、内閣府に提出する書類へ以下の助成対象情報を公開します。

- (1)申請代表者の氏名
- (2)申請代表者の所属機関、役職名(申請時)
- (3)研究テーマ

申請フォーム、申請書にご記入いただいた個人情報は、選考及び選考結果の通知のために使用するもので、個人情報保護法および関連する法令・規範にもとづき、厳重に管理します。上記以外には、ご本人の同意がある場合または正当な理由がある場合を除き、第三者に開示または提供しません。

<お問い合わせ先>

公益財団法人サントリー文化財団 研究助成「学問の未来を拓く」係

メールアドレス sfnd@suntory-foundation.or.jp

ご不明点については、本文に以下の項目についてご記入の上、電子メールにてお問い合わせください。①氏名、②申請予定のプログラム名(研究助成「学問の未来を拓く」)、③使用しているOS、④使用しているブラウザ、⑤お問い合わせ内容 ※③、④はシステム関係のお問合せの場合のみ

以上

2022年度 研究助成「学問の未来を拓く」 申請フォーム・申請書記入上の注意事項

当財団 HP に記載の申請手順と本注意事項をご確認の上、申請をお願いいたします。

STEP.1 マイページ登録（既にマイページをお持ちの方は、STEP.2 へお進みください）

申請手順ページの STEP.1 に沿って、申請用のマイページを取得してください。マイページ取得者を研究グループの代表者とみなしますので、あらかじめご了承ください。

➤ 申請手順ページ https://grants.suntory-foundation.or.jp/login/about_app.html

STEP.2 マイページへのログイン

取得した ID とパスワードを使用して、マイページにログインしてください。

➤ マイページ <https://grants.suntory-foundation.or.jp/login/>

STEP.3 申請フォームへの入力と必要書類の提出

マイページ内の「Information」もしくは「助成申請受付」から、研究助成「学問の未来を拓く」を選択し、フォームに必要事項を入力し、申請書のアップロードを行ってください。

● 申請書のダウンロード方法

申請書は当財団指定のフォーマット(word ファイル、2 ページ)を用いてください。フォーマットは、当財団の研究助成ページよりダウンロードできます。

➤ 研究助成ページ <https://www.suntory.co.jp/sfnd/research/>

● 申請書記入上の注意

- ・ 必要事項を申請書に漏れなく記入してください。ページ内に収まる範囲であれば、各項目の記入枠の大きさの調整は可とします。
- ・ 申請書(word)のレイアウトが崩れる場合は、研究助成ページに掲載の見本(pdf)を参考に、レイアウトをご修正ください。
- ・ 申請書はすべて日本語でご記入ください。ただし、海外で発表した論文・書籍のタイトル、海外で行われた学会名等は英語表記を可とします。

● 申請フォーム内の「費用明細」の記入について

- ・ 次ページ【費目例】を参照の上、内容(80 文字、4 行以内)と金額を「明細」欄にご記入ください。
- ・ 「金額」欄の数字は、小数点以下を切り捨てて半角で入力してください。
- ・ 所属機関の研究費や他機関からの助成、自己資金の使用を予定する場合は、「他資金」欄に金額をご記入ください。(※研究規模の把握が目的で、選考には直接関係ありません)

【費目例】

会議費	会議会場の使用料、速記・翻訳代、茶菓代など
謝金	講師、インタビュー対象者等への謝金
飲食費	レセプション、懇親会などの飲食費(酒類を含む)
旅費	会議出席・調査のための交通費・宿泊費 ※助成対象研究の進捗について報告義務を設けていますので、その際の研究代表者1名分の大阪への旅費も含めてください。
資料費・印刷費・複写費	研究に必要な図書・論文等の購入費 資料、調査票などの印刷・複写費、研究成果発表の印刷費
その他	上記以外で、研究に不可欠のものがあれば具体的にご記入ください。

【記入例】

費目	当財団助成金(申請年度の費用のみ記入してください)		他資金
	明細	金額	
会議費	インタビューのための会場費 5 千円×10 回	5 万円	
謝金	インタビュー対象者謝金 1 万円×10 名	10 万円	
飲食費	研究会後の懇親会費 5 千円×8 名×10 回	40 万円	10 万円
旅費	アメリカ調査費(往復航空券、滞在費)30 万円×2 名、中間報告会参加にかかる費用(東京-大阪、1泊)4 万円	64 万円	20 万円
資料費・印刷費・複写費	書籍購入代 6 万円、資料複写費 5 万円	11 万円	
その他	インタビューに必要なオンライン設備費	5 万円	
合計		135 万円	30 万円

本プログラムへの申請金額
(50～300 万円)

● 申請書のアップロード

- 記入が完了した word ファイルを **pdf に変換し**、ファイルアップロード欄よりご提出ください。
 ※申請書は 2 ページです。pdf が 3 ページ以上の場合、アップロードできませんのでご注意ください。
- 該当ファイルを選択してから右側の「提出書類一括アップロード」ボタンを押してください。ウイルスチェック後、「戻る」をクリックし、「提出済」の文字が表示されていれば、正常にアップロードが完了しています。

STEP.4 データ送信

- 全ての必要事項を入力し、申請書のアップロードができましたら、「申請する」ボタンを押して申請内容を確認してください。内容に問題がなければ再度ページ下部の「申請する」ボタンを押して申請を完了してください。申請完了後に、記入内容の修正はできませんので、送信前に必ず内容をご確認ください。
- 申請が完了しましたら、登録されたメールアドレスに受付確認のメールが届きます。このメールが申請完了の証明となりますので、選考結果の通知まで保管してください。メールが届かない場合は、必ず事務局までお知らせください。

その他

- 電子メール、郵送、FAX、ご持参による申請は受け付けていません。
- 送信した申請書のデータは、選考結果の通知までご自身で保管をお願いいたします。
- 申請締め切り(4月7日(木)23時59分)の直前は、アクセスが集中し送信できない可能性があります。余裕をもってご申請ください。

以上